

春日部動物愛護だより夏号

これから夏に向けて、帰省や家族旅行などペットと一緒に出かけする方も多いでしょう。そこで、今回は大切な家族を迷子にさせないための予防策についての情報です。

動物を家に迎えたら、生涯お世話をすることは当然のことなのですが、その管理をしっかりとすることも飼い主さんの役目になります。毎日のように迷子になる動物がいます。そのうち、どれくらいの頭数が飼い主さんのもとへ戻れているのでしょうか…。

迷子にさせないよう予防をすることが何より大切です。

迷子にさせないために

①「鑑札」や「済票」を首輪につける（犬の場合）

市町村へ登録の際に鑑札が発行され、済票は狂犬病予防注射を接種した際に発行されますが、どちらにも番号が記載されており、その番号は愛犬のみが持つ番号です。それを首輪に付けておくことで、迷子の際に飼い主さんの特定が出来ます。

②迷子札をつける

最近では可愛らしい迷子札もたくさん売られています。ご愛犬ご愛猫にぴったりのものを探すのも楽しいですよ。

③マイクロチップを装着する

動物の身体の中に、個体識別番号の入った小さなチップを埋め込み、その番号から登録されている飼

い主さんを特定するものです。番号を読み取るには、専用のリーダーが必要で、「体内に埋め込む」ということに躊躇される飼い主さんが多く、残念ながらあまり一般的ではありません。「専用リーダーがなければ意味がない」とお考えの方もいらっしゃいますが、装着の際の痛みはさほどなく、チワワでも装着可能です。

また、鑑札や迷子札と違って、外れる（外される）心配がありませんし、盗まれてしまった場合、自分が正規の飼い主であることの証明にもなります。さらに、専用リーダーを置いてある施設は着々と多くなってきています。ここ春日部の保健所に収容された犬に関しては、全頭リーダーによる検査を受けます。また猫（離乳後）も、保護場所である動物指導センターで全頭検査をしております。チップ番号が読み取れた子は、その番号を登録団体（AIPPO）に照らし合わせ、飼い主が判明した場合には連絡がいくようになります。



※既にペットシヨップで装着済みの動物が売られていることがあります。登録を飼い主さんに変更しなければ意味がありませんのでご注意ください！

普段から気をつけておくこともあります。それはお散歩中とおうちの中での過ごし方。お散歩中、手からリードが離れてしまう、留め金やリー

ド・首輪そのものの不具合で取れてしまうなどで、そのまま走り去ってしまうことがあります。リードはしっかり持つことと、犬具の点検を忘れずに！また、離れてしまった時に「オイデ」などの呼び戻しがきちんとできるよう、普段からトレーニングしておくことも大切です。

家の中に居ても迷子になることがあります。ドアや門が開いていた、目を離れた一瞬の隙に、また、これからの夏場に特に多いのが、雷や花火の音にびっくりして家から飛び出してしまい、そのまま迷子になってしまう場合です。

犬猫には帰巢本能があるから大丈夫？

実はこれ、大丈夫じゃないんです…。外に出ただけでパニックになってしまうため、自分から家に帰ってくることは難しいです。ましてや旅先であればほぼ不可能だと思って下さい。また、高齢動物で認知症を患っている子がふとした時に外に出てしまうと、自力で戻ってくるのはより困難になるでしょう。

迷子にさせてしまってからでは遅いです。ぜひ「迷子防止」にため、愛犬愛猫を守ってあげて下さいね。

それでも、万が一迷子にさせてしまった時は…次回の愛護だよりテーマにしたいと思います。



（発行：彩の国動物愛護推進員 春日部ボランティア）
動物に関する相談先：埼玉県保健医療部生活衛生課
動物指導担当 ☎048-830-3612